

藤枝市長

北村正平様

藤枝商工会議所
会頭 富澤 静雄

蓮華寺池公園と西高跡地の一体的利活用に関する要望について

当商工会議所事業運営につきましては、平素より格別のご支援、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

当商工会議所の観光振興委員会では、平成20年2月より約2年間をかけて蓮華寺池公園と西高跡地の一体的利活用による経済波及効果について調査・研究を進め、この度、別紙内容の要望として取りまとめました。

調査・研究の過程では、蓮華寺池公園周辺の現地視察、関係者へのヒアリング、延べ35の商店が参加した「さんぽ市」を実施するなど、蓮華寺池公園の魅力を高める方策や西高跡地の有効活用による経済波及効果策を考察致しました。

要望には、蓮華寺池公園の魅力をさらに高める、来園者へのサービス向上と新たなにぎわいを創出する、周遊のネットワークをつくる3つの提案があり、その具体的方策を挙げさせていただきました。この提案はいくつかの新たなものを含むものの、基本的には今まで語られてきた路線です。

市当局におかれましては、本要望内容を十分ご理解いただき、藤枝市の観光拠点としての整備方針を定め、早期に着手し、実現させていただきようお願いいたします。

当商工会議所と致しましては、下記3項目の内、「西高跡地の新たなにぎわいの創出」については、その一翼を担っていきたくと考えております。市と商工会議所が力を合わせて、蓮華寺池公園の魅力を一層高め、交流人口の増加、ひいては商工業、農業の発展に繋げていきたいと存じます。

要望提案事項の実現に向けリーダーシップを取っていただくよう要望いたします。

記

要望項目

1. 蓮華寺池公園の魅力を高めること。
2. 西高跡地と一体的活用によって、来園者へのサービス向上と新たなにぎわいを創出すること。
3. 周遊のネットワークをつくること。

はじめに

■趣旨

蓮華寺池公園には年間100万人余が訪れ、市内外の皆さんの憩いの場となっています。

もちろん、この中には日常、近隣の住民が散歩をしたり、会話を楽しんだりする方々が含まれていますが、実は「さんぽ市」のアンケートにみると、市外からの来園者が46%と半数となっています。藤まつりを中心とする春から初夏の花の咲く時期や藤枝花火大会では、さらに多くの市外の方が来園します。藤枝市においては、蓮華寺池公園が年間を通じてみると、最も集客力があり観光の拠点です。

蓮華寺池公園は、四季折々自然に触れ、景観を楽しめる公園であり、この魅力を西高跡地と一体的にさらに高めていくことができると期待されています。

この観光資源を十分に活かすことによって集客をはかり、地域の商工業や農業の発展につなげ、経済の波及効果を高めていく必要があると考えます。

当委員会は、下記の3点について提案します。

- 1 蓮華寺池公園の魅力をさらに高めること。**
- 2 藤枝西高跡地との一体的活用によって来園者へのサービス向上と新たなにぎわいを創出すること。**
- 3 回遊のネットワークをつくること。**

この提案は、いくつかの新たな具体的な提案を含むものの、基本的には今まで語られてきた路線です。

これを実現していくためには、このプロジェクトに関係する地域住民や、関係団体の熱意が必要であることは言うまでもありません。

一方、藤枝市がこの熱意を受けとめて、藤枝市の観光拠点の整備の方向を示し、花と緑の課や商業観光課など関係各課がプロジェクトチームをつくり、民間の活動を支援していく体制が不可欠です。このことによって、「元気なまち藤枝づくり」が実現していくものと期待します。

蓮華寺池公園と西高跡地利活用計画の提案

テーマ：日本一の藤の里、やすらぎ公園

■ 1. 蓮華寺池公園の魅力をさらに高める

◆ 1-1 まずは、藤が生育できる環境を整備する

□藤枝市は「日本一の藤の里／藤枝」を目指してきました。これは、藤枝市内の各地域に藤の見どころをつくり、藤枝市全体を藤の里としていこうという構想です。現在、主な藤の見どころは20カ所あります。その拠点となるのが蓮華寺池公園です。蓮華寺池公園には、現在、23種類の藤があり、藤棚は151カ所、一本木は127本あります。しかし、藤は横に根を張り成長するため、現在の土壌の状況は生育に適した環境ではありません。そのため、藤に樹勢がなく枯れている木もあります。

□藤の生育にとってよい環境を整備し、藤の質の向上を行う。
(舗石を取り除き、樹木の下に入らない処置等を行う)

□現在の藤の23種類を40種類ほどに増す。

□池の周辺に藤が連続するように植える。特に公園の入口の付近にシンボルとなる藤を植える。

◆ 1-2 ほっとする、くつろぎの場を提供する公園の整備を行う

□四季の花木を補充する。

現在植えられている花木の種類と場所に、四季折々楽しめる花木を補充する。特に、秋、冬の花木の種類を充実する。(もみじ・さるすべり・ばら・ゆり・しゃくなげ等)

□公園内のベンチや歩道等の設備は、できるだけ自然のものを使用する。

□花木を育てるエリアと観賞するエリアを区分する。

□野外音楽堂や遊歩道脇の空地を活用して、バンド、ダンス、ストリートミュージシャン、演芸などの発表の場として活用する。

□あずま屋や路地でのお茶席や野点などで、藤枝茶のPRを行う。

□ウォーキングコースを充実する。

□人力車を走らせ周遊する。

□水辺を取り戻し、水をきれいに浄化する。

□公園管理事務所は後方に移動するか、または景観に合った外観とする。

◆ 1-3 そのためには

- 「藤の里」10年計画をつくり、拠点となる蓮華寺池公園の藤の育成に藤枝市の予算を計上する。
- 「藤の里」の会員を市内、全国の藤枝出身者等から募集し関心を高める。
- 蓮華寺池公園保勝会や関係諸団体の協力を継続発展し、公園の整備、管理を市民で進める。
- 藤を管理する専門職（樹木士）を市の職員として置く。

◆ 1-4 活用法

- 公園全体を藤の博物館として設定し、藤の学習ができる体験型の観光を企画する。
- 藤の学習ができるガイドブックを作成する。
- 藤の育成教室を開催する。
- 藤の案内人を育てるため、藤博士の認定制度を設ける。
- 博物館に藤関係の本を揃える。
- 藤グッズの開発をし、製作体験と販売を行う。
藤をデザインしたグッズ（染め物 衣料品 工芸品）
藤にちなんだ飲食（和菓子 スイーツ カクテル）
- 春の藤祭り、藤の鉢コンテスト、冬の藤のイルミネーションなど藤にちなんだ年間イベント計画をつくる。

◆ 1-5 案内板の整備

- 藤枝市内外から誘導できるように案内板の整備を行う。
（静岡空港や幹線道路からの案内板。英語、ハングル語、中国語）
- 東海道商店街やお茶の香ロードを周遊できるよう案内板の整備を行う。
（東海道沿いへの案内板）
- 公園入口に案内板を設け、公園全体の案内、公園の花木の分布や咲く時期の案内。
また、藤枝市内の藤の見どころマップの表示を行う。

◆ 1-6 広報 インターネットで情報を配信する

- 上記の情報はインターネットでも配信する。特に、市内の主要な花の開花情報や年間イベント情報を提供する。藤の開花の様子をリアルに刻々と伝える。
- インターネットを活用して、藤の会員を全国から募る。会員制として「藤募金」を行い藤の育成にあてる。
- 広報は藤枝市商業観光課、藤枝市観光協会を中心に進める。

■ 2. 西高の跡地との一体的活用によって来園者へのサービス向上と新たなにぎわいを創出する

◆ 2-1 西高跡地の活用

- 駐車場は区画ごとに花木を植え、公園との一体的な景観とする。
- 信号機付近に藤枝市の観光案内所を設置する。
- 道路沿いに常設店舗を設置する。
 - 花を見て地域の食材による食事ができる場所
 - 地元商店街のチャレンジショップ、ファーマーズマーケット
 - オープンカフェ、ビアガーデン、屋台、藤グッズのみやげ物店等
- 藤をテーマにしたデザインの名物トイレを設置する。
- 土日、祝日には、公園と跡地の道路を車両通行止めとして、一体的活用を図る。
(その際、中央小跡地も駐車場に充てる)



<参考>道路沿いに常設店舗を設置する。とりあえずは、このような簡易的な店舗で。



◆ 2 - 2 蓮華寺池ホールの活用

□（仮称）平成藤枝座として、歌舞伎、寄席、舞踏、演劇、邦楽、民謡などの興行もできるように演芸場とし利用できるよう検討する。

□ホールを商店組合等の活動の場として提供する。各商店は飲食や物品を用意して各種パーティー、集会、イベントを組合で受注し、各商店の売上げの向上を図る。

（仮称）平成藤枝座

藤枝は東海道の宿場町として発展し、江戸文化の名残りを今にのこしている。

藤枝大祭は江戸時代から行われ、現在では、長唄地踊りの祭礼として日本一の内容を維持している。昔から藤枝は長唄や舞踊をたしなむ人が多く、芸どころと呼ばれた。

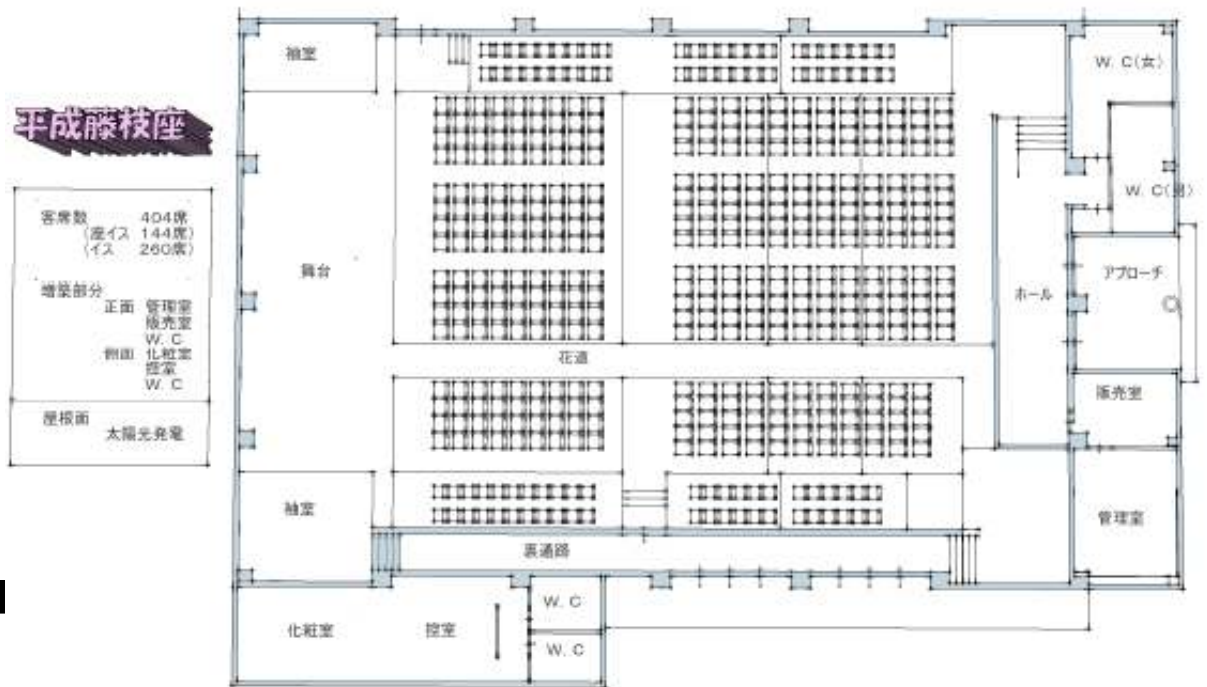
大正から昭和にかけて、上伝馬は旭光座に集まる人々で賑わった。旭光座は当初、芝居小屋として上演され、その後映画館となりテレビの普及とともに姿を消した。現在、全国で芝居小屋として維持運営されているものは約20カ所に過ぎず、静岡県には存在してない。

こうした藤枝の歴史と文化を活用して、日本の伝統芸能や文化を発信する場として、かつての旭光座のような江戸時代の芝居小屋を復元したい。

西高跡地の体育館を利用し、「平成藤枝座」と銘打って、歌舞伎、日本舞踊、能、狂言、文楽、落語、漫才、浪曲、大道芸、長唄、小唄、雅楽、三味線、尺八、箏、大正琴、太鼓、詩吟などの日本芸能を上演したり、市民サークルの発表の場としても活用する。できれば年一度は、歌舞伎が興行できれば良い。

グローバル化により、日本の社会はアメリカナイズされ、日本文化もその影響を受けて変質しつつある。国際化の中にあっては、文化も変化せざるを得ないが、その国の固有の文化を守ることも大切なことである。それはその国の歴史に裏打ちされたものであり、かけがえのないものであると思う。

その意味で、存続が危ぶまれている日本の伝統芸能を軸に、和の文化に特化してそれを発信することにより、藤枝の名を多くの人々に知らしめることができると思うのだが、いかがであろうか。



◆ 3-1 東海道の商店街やお茶の香ロードと関係づけ周遊できるようにすること

□東海道商店街との周遊

東海道五十三次の史跡をウォーキングし、探索する愛好家が増えてきている。これに対応して、藤枝商工会議所商業振興委員会では、「まちの駅」の研究を進めている。例えば、東海道商店街に藤の鉢を設置すれば、景観として良くなり公園との一体感や連続性をもたせることができる。

□お茶の香ロードとの周遊

お茶と歴史のまちにふさわしい風景づくりをしている茶町地区や瀬戸川の桜並木との周遊を検討する。

□寺の花、銘木めぐり

◆ 3-2 静岡空港の利用者向けに、志太榛原の主要な観光ルートに組込むこと

□静岡空港の就航先向けのパンフレットに、蓮華寺池公園の紹介を掲載し広報を行う。

□藤枝市内の観光ルートに組込む。

蓮華寺池公園と西高跡地利活用 提案優先順位リスト

主要項目	1. 蓮華寺池公園の魅力をさらに高めること。		2. 藤枝西高跡地との一体的活用によって来園者へのサービス向上と、新たなにぎわいを創出すること。		3. 回遊のネットワークをつくること。	
区分	ハード	ソフト	ハード	ソフト	ハード	ソフト
1	■藤の育成 ・藤の生育にとってよい環境を整備し、藤の質の向上を行う。 ・公園の入口の付近にシンボルとなる藤を植える。 ・池の周辺に藤が連続するように植える。 ・現在の藤の23種類を40種類ほどに増す。	■専門職の配置 ・藤を管理する専門職(樹木士)を市の職員として置く。	■市場の場所を確保 ・道路沿いのネットフェンスを撤去し、歩道と同一のレベルまで埋め立て市場が開ける場所を確保する。 ・経過をみて、常設店舗を設置する。	■公園とつなげる ・土日、祝日には公園と跡地の道路を車両通行止めとして、一体的活用を図る。	■案内板の設置 ・藤枝市内外から誘導できるように案内板を整備する。 ・近隣と周遊できるように案内板を整備する。 ・公園入口に公園全体の案内板、公園の花木の分布や咲く時期の案内板の設置。	■連携 ・東海道の商店街やお茶の香りと関係づけ周遊できるように調整をはかる。
2	■商品の開発 ・藤グッズの開発をし、製作体験と販売を行う。	■体験型学習の推進 ・博物館に藤関係の本を揃える。 ・藤の案内人を育てるため、藤博士の認定制度を設ける。 ・藤の育成教室の開催。 ・藤の学習ができる体験型の観光を企画する。	■トイレを設置 ・藤をテーマにしたデザインの名物トイレを設置する。	■ホールの活用 ・蓮華寺池ホールの活用計画を検討する。		■観光ルート開発 ・志太榛原の主要な観光ルートに組み込むように働きかける。
3	■花木の補充 ・四季折々楽しめる花木を補充する。	■広報活動の推進 ・年間イベント計画をつくる。 ・「藤の里」の会員を市内外から募集し関心を高める。 ・情報をインターネットで配信する。	■観光案内所の設置 ・信号機付近に藤枝市の観光案内所を設置する。			
4		■イベント誘致 ・あずま屋や路地でのお茶席や野点などで藤枝茶のPRを行う。 ・野外音楽堂や遊歩道脇の空地を活用して、バンド、ダンス、ストリートミュージシャン、演芸などの発表の場として活用する。	■駐車場の整備 ・駐車場は区画ごとに花木を植え、公園との一体的な景観とする。			
5		■藤の資料の充実 ・博物館に藤関係の本を揃える。 ・藤の学習ができるガイドブックや藤枝市内の藤の見どころマップの製作。				
6		■活動母体の育成 蓮華寺池公園保勝会や関係諸団体の協力を継続発展し、公園の整備、管理を市民で進める。				